



製品名 : **Database Accelerator (DBXL) v2.4**

文書名 : **インストールガイド**

この文書には、DBXL v2.4 のインストール手順を記しています。アウトラインは下記のとおりです。

システム要件.....	2
インストール.....	5
インストール後.....	12
トラブルシューティング.....	16
サポート.....	23



システム要件

Database Accelerator (DBXL) v2.4 をインストールする前に、下記をお読みください。

クライアント

DBXL v2.4 をインストールする前に、クライアントマシン（DBXL へのアクセスに使用するマシン）が下記要件を満たしていることをご確認ください。

- オペレーティングシステム: Windows XP、Windows Vista、または Windows 7。
- アクセス権限: DBXL がインストールされるサーバーに対して権限があること。
- Office および InfoPath のバージョン: Microsoft Office 2003 (InfoPath 2003)、Microsoft Office 2007 (InfoPath 2007) または Microsoft Office 2010 (InfoPath 2010)。
- ブラウザ: Internet Explorer 7 以降のバージョン。Mozilla Firefox など、ほかのブラウザはサポートされていません。
- ローカルイントラネット接続: DBXL をインストールするサイトがローカルイントラネット接続の一部ではない場合、ツール>インターネットオプション>セキュリティの設定で、このサイトをイントラネットのサイトに加える必要があります。これはローカルマシンからシステムが適切なアクセスを受けられるようにするために必要です。手順：
 1. Internet Explorer の「ツール」メニューをクリック 「インターネットオプション」を開く
 2. 「セキュリティ」タブをクリック 「ローカルイントラネット」のアイコンを選択
 3. 「サイト」のボタンをクリック
 4. すべてのボックスにチェックが入っていることを確認し、「詳細設定」をクリック
 5. DBXL がインストールされるサイトのアドレスをテキストボックスに入力（例：<http://<servername>>）し、「追加」をクリック
 6. その際、「Require server verification (https_ for all sites in this zone)」にチェックが入っていないよう注意する。
 7. 「閉じる」をクリックし、「OK」を 2 回クリックしてダイアログウィンドウを閉じる

サーバー



DBXL v2.4 をインストールする前に、サーバーマシン（DBXL がインストールされるマシン）が下記要件を満たしていることをご確認ください。

- DBXL はドメイン内のマシンにのみインストールしてください。これは、**マイコンピュータ > プロパティ > コンピュータ名** で確認できます。DBXL の認証機能では、ワークグループは適切ではありません。DBXL をドメイン外のマシンにインストールすることを選択された場合には、DBXL の認証に関する機能（Active Directory ウェブサービスなど）は機能しません。
- SQL : DBXL 2.4 は SQL 2005（Express Edition も含む）および SQL 2008（Express Edition も含む）との互換性があります。MSDE および SQL Compact での動作は未確認です。DBXL の検索メソッドの全機能を使うには、フルテキスト検索をインストールする必要があります。フルテキスト検索がインストールされていない場合でも、DBXL をインストールできます（その場合はイベントビューアに警告ログが残ります）が、Windows Vista などでは、フルテキスト検索がない場合インストーラが先のステップに進まないこともあります。
- IIS: DBXL は .NET Framework 2.0 に対応した IIS 5.1 以降のバージョンを必要とします。IIS 7.0 の場合、IIS6.0 の互換性機能をすべてインストールする必要があります。
- Network Service アカウント（または DBXL のアプリケーションプールが使われるアカウント）が WSS_WPG（DBXL を SharePoint サイトにインストールする場合）または IIS_WPG（DBXL を SharePoint サイト以外にインストールする場合）に追加されていることを確認してください。
- サーバー設定時、Windows コンポーネントのアプリケーションサーバーに、ASP.Net アプリケーションを許可するオプションがあります。DBXL を適切にインストールし動作させるためには、このオプションをインストールする必要があります。
- DBXL のアプリケーションプール アカウントには、db_datareader と db_datawriter のアクセスが必要です。設定時に、このアカウントにアクセス権限が与えられます。
- 重要 : Windows XP の場合、Windows XP の IIS は、アプリケーションプールをサポートしていません。ローカルの ASPNET アカウントが SQL で「sysadmin」権限を与えられている必要があります。Windows XP のサポートは、ローカルの SQL サーバーインスタンスに限定されています。

WINDOWS 認証か、SQL 認証か？



DBXL は、データベースに接続するため、インストーラの指定により Windows 認証または SQL サーバー認証のいずれかを使用します。DBXL が SQL サーバーに接続するために使用する接続ストリングは、ウェブサービスの `web.config` ファイルにあります。

Windows 認証の場合はパスワード情報を含まないため、接続ストリングは暗号化されません。インストール時に、DBXL データベースのため DBXL サービスアカウントが `db_datareader` および `db_datawriter` のロールに加えられます。DBXL のインストールを実行するユーザーアカウントは、SQL サーバーインスタンスのシステム管理者でなければなりません。

ローカルのアカウント（「Network Service」）とリモート SQL インスタンスを使う場合は、マシンのアカウント（`<Domain>\<Machine>$`）が `db_datareader` および `db_datawriter` ロールに加えられます。

SQL サーバー認証を使用する場合、接続ストリングは権限のないユーザーがパスワード情報を得ることのないよう、暗号化されます。また、SQL 認証を使う場合は、該当の SQL アカウントには、インストール時においてデータベース作成の権限が必要です。インストール完了後には、必要な権限は `db_datareader` および `db_datawriter` ロールのメンバーシップのみとなります。

	SQL 認証	Windows 認証
ローカルの SQL サーバー	<ul style="list-style-type: none"> 接続ストリングは暗号化 SQL と Web Service ユーザーは別の存在 	<ul style="list-style-type: none"> 接続ストリングは暗号化されない SQL と Web Service ユーザーは同じ
リモートの SQL サーバー	<ul style="list-style-type: none"> ローカルの SQL サーバーに同じ QueryDB 接続の接続ストリング connections must be declared (unencrypted) in web.config. 	<ul style="list-style-type: none"> 接続ストリングは暗号化されない .ユーザー <code><Domain>\<Machine>\$</code> がリモート SQL サーバーに <code>db_owner</code> として追加

どちらの認証方法でも、SQL サーバーに接続するユーザーは `db_datareader` および `db_datawriter` ロールで QdabraDBXL および QdabraUtility データベースに追加されます。

WSS 2.0 との互換性

DBXL v.2.4 は WSS2.0 と互換性がありますが、いくつか制限があります。



- 「**Publish Library and XSN**」 : DAT(DBXL Administrator Tool) の「SharePoint」 タブに、「Publish Library and XSN」というチェックボックスがあります。これは、DBXL に保存された「template.xsn」 ファイルを基に SharePoint フォームライブラリを作成するためのものですが、WSS 2.0 との互換性はありません。WSS2.0 ユーザーの方は、この問題を回避するための詳細な方法がドキュメント「How to Create SharePoint Mappings on WSS 2.0」に説明されていますので、そちらをご参照ください。
- QuerySharePoint: WSS 2.0 をご利用の場合、QuerySharePoint Web サービスを呼び出す際にエラーが生じることがあります。これは、WSS 2.0 が、人間に読める形の列名を受け付けないことに起因しています。この問題を回避するには、静的な name 列をパラメータ「tns:valueColumn」「tns:displayColumn」「tns:sortColumn」「tns:sortOrder」に対する値として扱います。同時にクエリも (tns:query および tns:filterXml パラメータ) 忘れずに静的列名に変更してください。静的列名に関する情報を得るには、<http://<servername>/QdabraWebService/QuerySharePoint.asmx> で「DescribeListSchema」メソッドを選択します。その後で SharePoint リスト名を入力し、すべての列の値を回復することができます。
- 削除の反映: ドキュメント「How to propagate deletes from SherePoint to DBXL」には、SharePoint と DBXL 間で削除を同期する方法が解説されています。ただし、この機能は WSS 2.0 との互換性はありません。
- DBXL v2.4 を WSS 2.0 と共に使う場合は、DBXL を SharePoint と同じマシンにインストールする必要があります。そうでないと、DBXL が SharePoint のマッピングを作成することができません。

インストール

このセクションでは、Database Accelerator (DBXL) v2.4 をインストールする手順をステップごとに記しています。

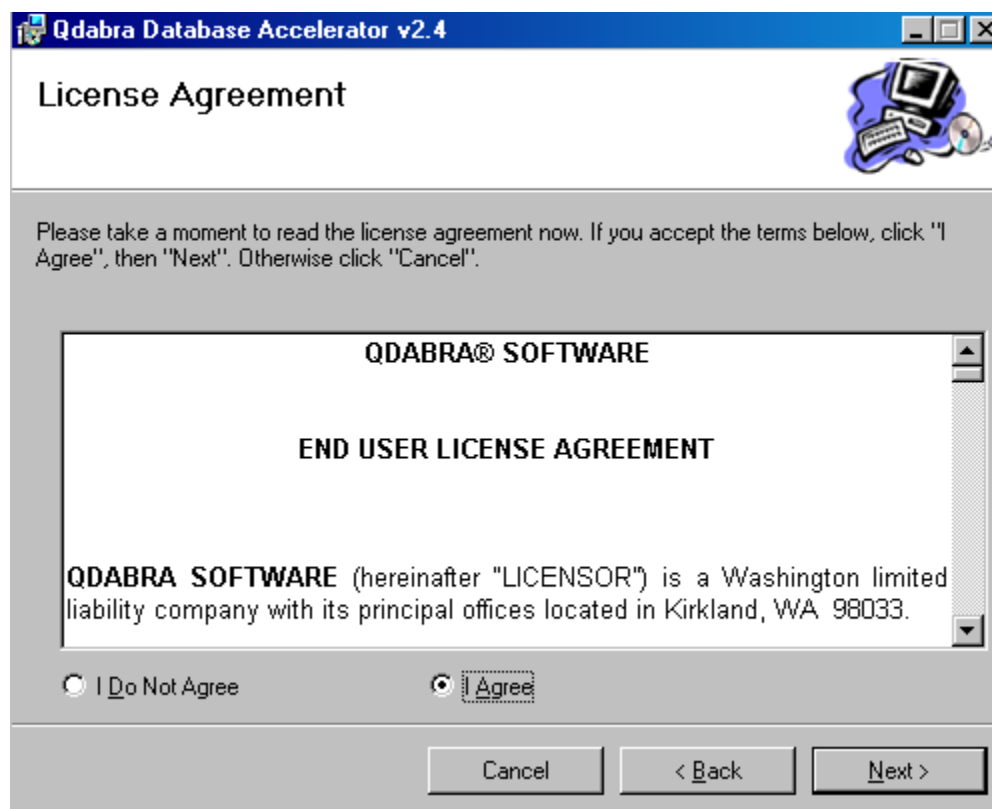
インストールを開始する前に、すべての InfoPath インスタンスを閉じてください。

インストーラの開始

1. 「setup.exe」をダブルクリックします。Windows Vista や Windows Server 2008 など一部の OS では、「setup.exe」を右クリックした後、**Run as Administrator** を選択します。



2. ウェルカム画面で「Next」をクリックします。
3. **End User License Agreement** を読み、「I Agree」を選択し「Next」をクリックします。



インストール先アドレス

4. **Installation Address** の画面で、すべてのサイトがドロップダウンリストで示されます。
 - DBXL と SharePoint を同時に使用する場合は、DBXL をメインの SharePoint サイトをホストしているのと同じサイトにインストールするよう、お勧めいたします。
 - この画面ではすべてのサイト（停止中のサイトも含む）がリストされていることにご注意ください。正しいインストール先サイトを選択してください。
5. **Virtual Directory** は、デフォルトでは QdabraWebService に設定されていますが、これはいつでも変更することができます。
6. 「Next」をクリックし、**Confirm Installation** の画面で再び「Next」をクリックしてください。

インストールの進行状況を示すバーが表示されます。インストールが完了すると、複数のタブのある画面が表示されます。



SITE タブ

「Site」のタブではサイト URL を選択することができます。

7. 「Site Url」のドロップダウンから、希望のサイトを選択してください。
 - DBXL v2.4 をインストールする環境によっては、デフォルトの **Site Url SSL** になります。認証を設定していない場合は、HTTPS サイトを選択しないでください。
 - サイトが HTTPS からアクセスされる場合は、DBXL のインストール前にウェブサイトを SSL 用に設定する必要があります。インストールに際して、HTTPS が選択されていることを確認し、完全修飾ドメイン名ドメイン名 (FQDN。トップレベルからのすべての情報を持つドメイン名) が使われている場合には、インストール時にその値を **hostname** フィールドに入力してください。
 - 「Site Url」ドロップダウンに、SSL と IIS で定義された Host ヘッダの組み合わせが表示されます。
 - マシン名を使わないオプションを選択した場合、**Binding Detail** セクションは無効になります。
 - マシン名を使うオプションを選択した場合、**Binding Detail** セクションで Host ヘッダを IIS で定義されていないものに変更することができます。
 - SharePoint サイトが **alias** を使用している場合、インストール時に Host ヘッダフィールドで指定する必要があります。

The screenshot shows a 'Binding Detail' configuration window. It contains the following fields and values:

- Host Header:
- Port:
- SSL:
- IP Address:

Below the form, a text box displays the resulting URL: `HTTPS://mysite.com:443/QdabraWebService/Documents`

8. 「Next」をクリックして次のタブに進みます。



LOG ON タブ

Log On タブでは、DBXL を実行するアカウントを指定することができます。SharePoint と Kerberos を使用の場合は、SharePoint アプリケーションプールと同じアカウントを使う必要があります。

9. **Predefined**、あるいは **Configurable** のアカウント認証を選択してください。

- **Predefined** を選択した場合は、認証情報を入力する必要はありません。

- **Configurable** を選択した場合は、**Account** と **Password** を入力する必要があります。

10. 「Next」 をクリックして次のタブに進みます。

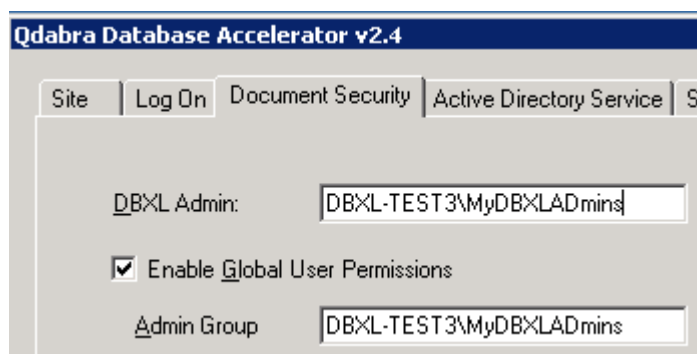
ドキュメント セキュリティ

Document Security タブでは、DBXL の承認情報を設定することができます。DBXL インストーラ は自動的に DbxlAdmins という名のローカルグループを作成します。インストール完了後、DbxlAdmins グループにユーザーを追加することができます。このグループのメンバーはライセンス管理、ドキュメン

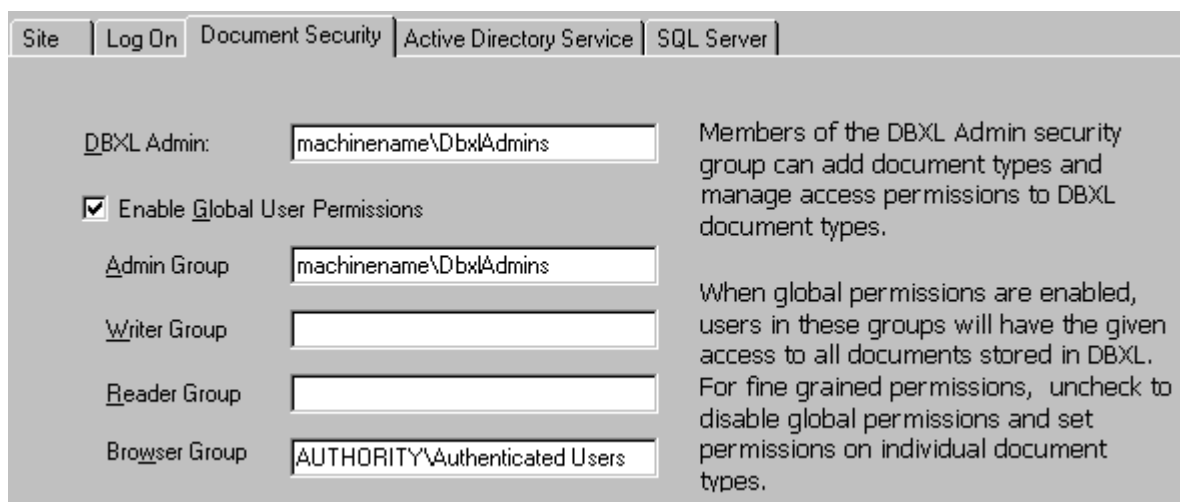


トタイプ追加、DBXL ドキュメントタイプへのアクセス権限管理などを行なうことができます。

下記の図のように独自のグループを使用したい場合は、インストール中のユーザー自身がグループに追加されたことを確認してください。



この画面ではこのほか、**Set Global User Permissions** チェックボックスなどのオプションが選択できます。**Set Global User Permissions** のチェックをオフにした場合には、**Global Permissions** が実行されないため、すべてのドキュメントタイプの承認を個別に設定する必要しなければなりません。**Global Permissions** を無効に設定すると DBXL が「開放」されるわけではありません。反対に、DBXL へのアクセスが制限される結果となります。



11. 「Next」 をクリックして次のタブに進みます。

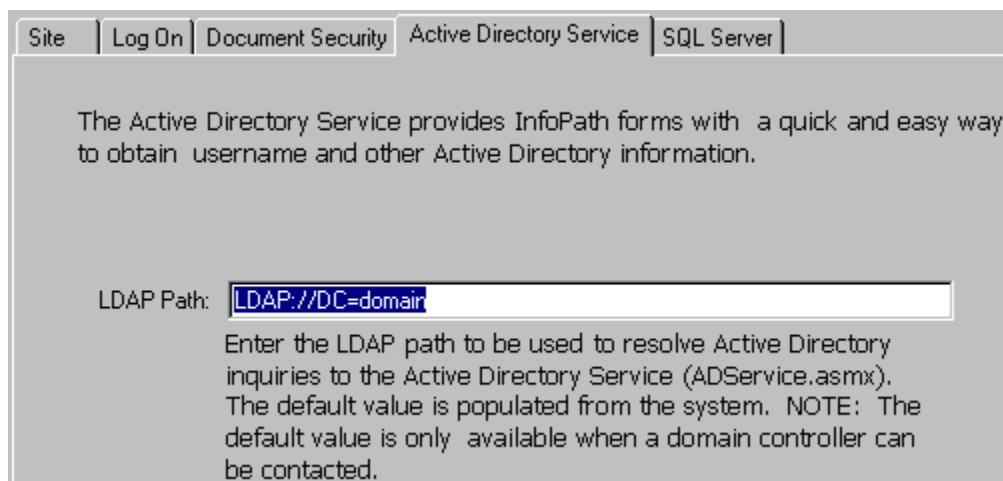


ACTIVE DIRECTORY SERVICE タブ

Active Directory サービスは、ユーザー名をはじめとする **Active Directory** 情報を得るために使用されます。

LDAP Path テキストボックスには、ドメインコントローラに接続できる場合にはシステムからデフォルト値が自動追加されます。

12. ドメインコントローラに接続にできない場合には、**LDAP Path** のデフォルト値は「LDAP://DC=domain」となります。この場合には **LDAP Path** を手入力してください。(例: **LDAP://DC=DomainName,DC=com**).



13. 「Next」をクリックして次のタブに進みます。

SQL SERVER タブ

SQL サーバーのタブは、DBXL がドキュメントを保存するデータベースの情報を表示します。

14. SQL サーバー名を選択してください。ドロップダウンボックスに、インストーラが検出したローカルの SQL インスタンスがすべて表示されます。たとえば、**SQL Express** を同じマシンにインストールする場合には、**(LOCAL)\SQLEXPRESS** となります。希望する場合はリモート SQL インスタンス名を入力することも可能です。
15. ドロップダウンリストから、SQL サーバーへの接続に使用する**認証**方法を選択します。
 - **Windows** 認証を選択した場合は、認証情報の入力不要です。**sysadmin** 権限を必要とする接続やデータベース作成には、**DBXL** をインストールするユーザーのアカウントが



使用されます。DBXL のアプリケーションプールに使われるアカウントには、セットアップを通して、**db_datareader** と **db_datawriter** のアクセス権限が付与されます。

- ▶ SQL サーバー認証を選択した場合には、**User name**、**Password**、**Confirm password** のフィールドに入力してください。SQL アカウントはデータベース作成に使われますので、**sysadmin** 権限が必要です。データベース作成後は、ユーザー権限を **db_datareader** および **db_datawriter** ロールに変更することができます。権限変更はインストール完了後にマニュアルで行ってください。

16. DBXL の文書が保存される場所に **Database** と入力してください。)

データベース名にスペースが含まれていると、DBXL のインストールは失敗し、エラーメッセージが表示されます。デフォルトのデータベース名は **QdabraDBXL** および **QdabraUtility** です。変更は可能ですが、かならずスペースを含まない名前にしてください。デフォルトのデータベース名を使用されることを推奨いたします。

このタブには、このほか、**既存のデータベース使用**のオプションが含まれています。このオプションは、DBXL v2.4 を以前にインストールしたことがあり、その時に使用したのと同じデータベースを再度使いたい場合にのみ、必要となります。

The screenshot shows the 'SQL Server' configuration window. It has tabs for 'Site', 'Log On', 'Document Security', 'Active Directory Service', and 'SQL Server'. The 'Server name' dropdown is set to '(LOCAL)\SQLEXPRESS'. The 'Authentication' dropdown is set to 'Windows Authentication'. Below these are three text boxes for 'User name:', 'Password:', and 'Confirm password:'. At the bottom, there are two text boxes: 'Document Database:' with 'QdabraDBXL' and 'Utility Database:' with 'QdabraUtility'. To the right of the 'Document Database' box is a checkbox labeled 'Use existing databases' which is currently unchecked.

インストーラの終了

17. **Finish** をクリックしてインストールを完了します。



インストーラの進行状況を示すバー **Configuration Status** が表示されます。インストールが実行されると表示が変わります。完了したら、**Installation Complete** 画面で **Close** をクリックしてください。Internet Explorer が開き、**default.htm** が表示されます。この画面から、**フォーム、ドキュメント、Web サービスの詳細** にアクセスすることができます。

インストール後

インストール状況の確認

Database Accelerator v2.4 (DBXL) のインストール完了後、インストールが成功したかどうかを確認する手順を以下にご説明します。

DBXL アドミニストレーション・ツール

DBXL アドミニストレーション・ツール (DAT) は、インストール中に自動的に設定されます。DAT には InfoPath 2003 もしくはそれ以降のバージョンが必要です。DAT が正しく設定されているかどうかは、以下の手順で確認できます。

1. デフォルトのページ <http://<servername>/QdabraWebService/default.htm> を開きます。
<servername> は DBXL がインストールされた URL により決定します。(インストール時に Site タブで指定)
2. **DBXL Administration Tool** のリンクをクリックします。DAT が開きます。

システム ドキュメントタイプ

DAT では、システムドキュメントのタイプ (DBXL が操作する必要があるドキュメントタイプ) が作成されていることを確認してください。System document types のセクションを拡張してドキュメントタイプを表示します。以下のリストが示されます。



System Document Types			
Name	Descriptions	Docs	Edit
DAT		0	
QdAttachment		0	
QdCategory		0	
QdDocumentIndexFields		22	
QdDocumentType		23	
QdDocumentTypePermissions		22	
QdDocumentTypeProperties		22	
QdDomain		0	
QdEmailFlow		0	
QdFile		0	
QdHierarchy		0	
QdImage		0	
QdMapping		22	
QdNodeNamespaces		22	
QdNotification		0	
QdRatings		0	
QdRefIdInfo		29	
QdSharePointListMaps		22	
QdStandaloneDashboard		0	
QdStandaloneLog		0	
QdTags		0	
QdUser		0	
qFormTemplate		0	

ライセンス

DBXL v2.4 にはトライアルライセンスが同梱されており、インストール時に自動的に設定されます。ライセンスが設定されていることを確認してください。DAT の **Configure Licenses** をクリックします。設定済みの DBXL トライアルライセンスが見当たらない場合、インストールが正常に行われていません。その場合は **Support** のセクションを見てください。

既存のインストールのクリーンアップ

DBXL V2.4 のインストール中に問題が生じた場合、クリーンアップを必要とする場合があります。以下に、インストールを再度行う前に確認する項目をご説明します。

1. アプリケーションプール、ならびに **QdabraWebService** ディレクトリが作成されているか？ IIS **Manager** を使ってチェックし、もし作成されていれば削除してください。DBXL のアプリケーションプール名は **DbxlAppPoolXXX**（XXX はウェブサイトの ID）です。
2. SQL Server Management Studio を使って、作成されたデータベース (**QdabraDBXL** ならびに **QdabraUtility**) をすべて削除してください。
3. 上記のクリーンアップ手順完了後、**iisreset** を行い、DBXL の再インストールを行ってください。

DAT を手動で発行する



以下のような場合、状況によっては、DAT を手動で設定する必要があります。

- ウェブサイトにアクセスする **hostname** を変更した場合。
- **Windows Vista** または **Windows Server 2008** をお使いの場合、**User Account Control** の作用のためにユーザーが **Administrator** として認識されず、インストール時に **DAT** が自動設定されないことがあります。インストールを完了するには、下記に説明する手順で **DAT** を手動で発行します。
(または、設定を *Run as Administrator* として再インストールします)
- **DBXL** のインストール中、「*Error publishing Admin Tool: Access Denied*」というエラーが表示された場合。これは、インストール中に **Permissions** タブでデフォルト以外の値を使用していることに起因している可能性があります。インストールを完了するには、下記に説明する手順で **DAT** を手動で発行します。または、設定時に **Security** タブの値をデフォルトにしておくことを確認してクリーンインストールを行います。

DAT の手動設定は、以下の手順で行なってください。

1. **DBXL v2.4** がインストールされたサーバーにログインします。
2. **Internet Explorer** で次の URL を開きます。
<http://<servername>/QdabraWebService/DbxlAdmin.aspx> (**Windows Vista** または **Windows Server 2008** を使用の場合は、**Internet Explorer** を **Administrator** として実行します)
3. **PublishDATFormTemplate** メソッドをクリックします。
4. ローカルドライブに保存された **DAT** テンプレートフォームのパスを入力します。**SharePoint** を用いない (*確認) デフォルトのインストールでは、パスは次の通りになります。
C:\inetpub\wwwroot\QdabraWebService\install\DAT-template.xsn
5. **Invoke** ボタンをクリックして、**PublishDATFormTemplate** メソッドを呼び出します。

ドキュメントタイプをすでに作成済みの場合は、**PublishDATFormTemplate** を呼び出した後、もう2つの追加手順が必要です。

6. **DAT** を開きます。
7. すべてのドキュメントタイプで、**Edit** と **Save** をクリックします。

SP1 を適用していない WINDOWS VISTA の場合

QDABRA WEBDAV ROOT プロトコル ハンドラ



<http://www.qdabra.com> Last updated on 1/4/2011 6:07 PM Copyright © 2006-2014

Autonomy Systems, LLC. キューダブラ合同会社 All rights reserved.

SP1 を適用していない Windows Vista マシンのバグを回避するため、特別な WebDAV プロトコルハンドラを root web site にインストールする必要がある場合があります。この問題は、Windows Vista が、インストール場所にかかわらず常に root web site をクエリに入れるために生じます。

1. inetmgr.exe を開き、DBXL がインストールされているウェブサイトを開きます。
2. QdabraWebService を右クリックし、**Open** を選択します。
3. bin フォルダを開きます
4. このフォルダから、「Qdabra.Dbxl.WebDAV.dll」をコピーします。
5. Internet Information Services に戻り、デフォルトのウェブサイトを右クリックし、**Open** を選択します。
6. bin フォルダを開きます
7. 「Qdabra.Dbxl.WebDAV.dll」をこのフォルダにペーストします。
8. **Start > Run** をクリックし、cmd.exe と入力します。
9. Qdabra.Dbxl.WebDAV.dll をコピーしたフォルダに戻ります。
10. 以下の手順で、dll を ローカルマシンのための Global Assembly Cache に追加します。
 - a. コントロールパネルを開き、**Administrative Tools** をクリック
 - b. **Microsoft .NET Framework 2.0 Configuration** をダブルクリック
 - c. マイコンピュータを開き、**Assembly Cache** をクリック
 - d. **Add an Assembly to the Assembly Cache** をクリック
 - e. ダイアログボックスが開いたら、上記の dll へのパスを入力し、**OK** をクリック

ホストヘッダ による SHAREPOINT 関連のエラー

DBXL v2.4 では、SharePoint からのデータをクエリにして、DBXL と SharePoint フォームライブラリをリンクするマッピングを作成することができます。 SharePoint へのアクセスに使われる URL と DBXL のサイトが異なる場合、クロスドメイン/マシンの問題に遭遇します。例として、SharePoint サイトが <http://portal/> で、DBXL のインストール先が <http://machine01/QdabraWebService/> であった場合を考えてみましょう。ポータルが machine01 のエイリアスにすぎない場合には、次のいずれかのオプションを選ぶことができます。

オプション A : DBXL の再インストール



1. DBXL がインストールされたディレクトリに行き、DBXL の `web.config` ファイルをコピーします。
 - なぜバックアップが必要か？ データベースのエイリアスなど、ここまでの段階での設定があれば、このコピーによりこれらの値を後からリストアすることができます。
2. DBXL をアンインストールします。コントロールパネルから実行することができます。
3. SharePoint サイト へのホストヘッダーのエントリーポータルを追加。
4. DBXL の再インストール
 - DBXL のインストール時に、インストーラがポータルのホストヘッダを認識し `web.config` には IP ではなく `http://portal/qdabrawebservice/` が使われているはずです。
5. DAT から すべてのドキュメントタイプで **Edit** を、次に **Save** をクリックします。
 - これにより、変更がすべてのドキュメントタイプに反映されます。
6. インストーラが作成した新しい `web.config` に、必要な変更を加えてください。

オプション B : `web.config` を手動で修正する

1. DBXL がインストールされたディレクトリに行き、テキストエディタで `web.config` file を開きます。
2. DBXL の `web.config` を更新します。 `http://<ip address>/qdabrawebservice/` の代わりに `http://portal/qdabrawebservice/...` を用います。すべてのインスタンスを置き換えることができます。
3. IIS をリセットします。
4. `PublishDATFormTemplate` を実行します。これには、 `http://portal/qdabrawebservice/` を DBXL をインストールしたマシンから Internet Explorer で開きます。「Admin service」をクリックし、 `PublishDATFormTemplate` をクリックします。ここで、 `DAT-template.xsn` へのパス (`C:\inetpub\wwwroot\Qdabrawebservice\install\DATtemplate.xsn` である場合もありますが異なる場合もあります) をすべて入力します。次にボタンをクリックします。
5. DAT から すべてのドキュメントタイプで **Edit** を、次に **Save** をクリックします。これにより、すべてのドキュメントタイプに変更が反映されます。

トラブルシューティング

以下に、インストール中に起こりやすい問題の詳細を示します。DBXL v2.4 のインストール中に問題が生じた場合、以下に該当するかどうかをご確認ください。

DBXL のインストール中、エラーメッセージ HTTP 404 が表示される場合



DBXL インストール中に表示される **http 404** エラーには、3つの原因が確認されています。

1. IIS マネージャの **Web** サービスマネージャエクステンションで **ASP.NET** が有効であるかどうか確認してください。DBXL をインストールするサーバーを設定する際、**Windows** コンポーネントのアプリケーションサーバーに、**ASP.Net** アプリケーションを許可するオプションがあります。DBXL を適切にインストールし動作させるためには、このオプションをインストールする必要があります。
2. サイトに複数のホストネーム、または複数の **IP** アドレスが設定されている場合もあります。DBXL が間違ったホストネームや **IP** アドレスを選ぶと、インストールは成功しません。これを回避するもっとも簡単な方法は、**IIS** 管理コンソールからサイトの設定にアクセスし、該当しないホストネームまたは **IP** アドレスをすべて一時的に削除することです。現在ログインしているユーザーがアクセスできるホストネームのみを残してください。DBXL のインストール完了後、残りのホストネームまたは **IP** アドレスを再度追加してください。
3. 三つ目の可能性は、ポート **80** またはポート **443** を使用するアプリケーションに関するものです。以下にこのシナリオについてご説明します。

ポート 80 またはポート 443 を使用するアプリケーションに関連したトラブル

DBXL インストール中に起こり得るシナリオは次の通りです：まず、以下のようなエラーメッセージが表示される。「Unable to start debugging on the web server. Section=ResponseStatusLine. (Web サーバーのデバッグを開始することができません。サーバーにプロトコル違反があります)」次に、**IIS** 管理コンソールで、**Web** サイトが実行されていないことに気づく。開始しようとする（*確認 when you try to start）「Unexpected Error 0x8ffe 2740 Occurred」というエラーメッセージが表示される。

この問題は DBXL に特有の問題ではありません。これは、共通のコミュニケーションポート（**http** の場合ポート **80**、**https** の場合 **443**）を使用しているほかのアプリケーション（**Skype** など）が、**IIS** と対立してしまうことが原因です。アプリケーションが **IIS** より以前にインストールされたものである場合、**IIS** はそれらのポートにアクセスすることができません。これにより、ローカルサーバーがホストする **Web** ページにアクセスしようとする際、または **Web** サイトをスタートする際に、**404** エラーが生じます。

これを解決するひとつの方法は、対立しているアプリケーションをアンインストールし、**IIS** がページを適正に供給できるよう確認することです。**IIS** がすでに共通ポートを使用していれば、アプリケーション



は再インストールの際にほかのポートを選択します。Skype など、アプリケーションによっては、異なるポートを選択することができ、アンインストールすることなしにこの状況を回避できるものもあります。

DBXL のインストール後 ページが見つからない場合

DBXL インストール後、`asmx` ページにアクセスしようとするときエラーメッセージ「Page Not Found (ページが見つかりません)」が表示される場合には、二通りの原因が考えられます：

1. DBXL がポート80以外のポートにインストールされた場合。これを修正するには、ネットワークのファイアウォールでポートのブロックを解除します。
2. Web サイトが複数のホストネームや IP アドレスを使うよう設定されている場合。この問題を回避するもっとも簡単な方法は、IIS 管理コンソールからサイトの設定にアクセスし、該当しないホストネームまたは IP アドレスをすべて一時的に削除することです。現在ログインしているユーザーがアクセスできるホストネームのみを残してください。DBXL をアンインストールし、再インストールしてください。DBXLのインストール完了後、残りのホストネームまたは IP アドレスを再度追加できます。

WINDOWS VISTA で IIS を起動できない場合

Windows Vista 使用の場合、次のエラーメッセージが表示される場合があります。「*The Process cannot access the file because of it is being used by another process* ほかのプロセスで使用するため、プロセスはファイルにアクセスできません(Exception from HRESULT: 0x80070020)」マシンを再起動しても問題が解決しない場合は、古いバージョンの Skype (もしくは他のアプリケーション) がポート 80 を占有していることに起因している可能性があります。この問題を解決するには、3つの方法があります：

- Skype をオフにする、または
- **Skype > Tools > Options > Advanced > Connection** を開き、「Use port 80 instead of 5049」のチェックをはずす、または
- IIS にポート 80 以外のポートを割り当てる。

IIS の機能はすべてオンにする

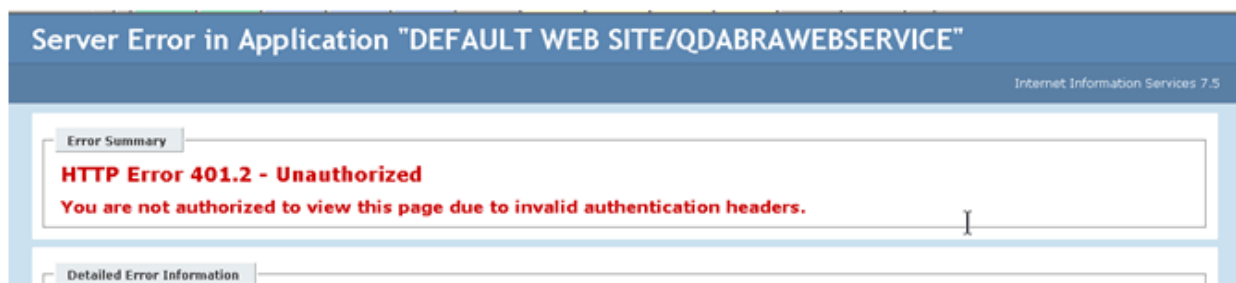
DBXL を正しくインストールするには、IIS の機能はすべてオンになっている必要があります。これを確認するには、**Control Panel > Add/Remove Programs > Windows Components** (または **Features**)を開き



ます。場合によっては、SQL をアンインストールし、SQL を再インストールする前に IIS の機能がすべてオンになっていることを確認する必要があります。

DBXL インストーラがインストールに成功しなかった場合、以下の手順でやり直してください。ロールバックの前に、サーバーで IE を開き、DBXL がインストールされたアドレスを開きます

(<http://server/QdabraWebService/DbxlAdmin.aspx>)。このアドレスが開き、ローカルイントラネットとして表示されていることを確認してください。下記のスクリーンショットに見られるようなエラーが表示された場合は、IIS の機能がすべてインストールされていることを確認してください。



MOSS 2007 マシンでエラーメッセージ「CLIENT FOUND RESPONSE CONTENT TYPE OF TEXT/HTML」が表示される

MOSS 2007 マシンに DBXL をインストールする際、次のエラーが表示されることがあります。「*Error initializing DBXL database. Client found response content type of 'text/html; charset=utf-8', but expected 'text/xml'.*」このエラーが生じた際の対処法は二通りあります。

- A. このエラーは、通常、データベース管理権限のない、あるいは SharePoint パーミッショングループのメンバー権限を持たないローカルマシンアカウントに関連しています。インストーラおよび Network Service を実行中のアカウント（または DBXL のために選択したアカウント）が SQL administrative permissions（管理権限）を付与されていることを確認してください
- B. MOSS 2007 がインストールされ、デフォルトの SharePoint サイトが（ポート 80 に）設定されると、マシン上に「Default Web Site」がロックされます。通常は、DBXL は新しく設定された「SharePoint - 80」の Web サイトにインストールします。DBXL のインストーラの初期設定パネルは、「Default Web Site」にセットされています。「Default Web Site」と「SharePoint - 80」は同一ではありません。「SharePoint - 80」がインストールのための Web サイトとして選択されていることを確認してください。



WINDOWS XP マシンで、DBXL のインストール中にエラーメッセージ 405 が表示される場合

インストール中、「*The installation failed, and the rollback had been performed. Error initializing DBXL database. The request failed with HTTP status 405: Method not allowed.* (インストールは失敗し、ロールバックを実行しました。DBXL データベースを初期化する際にエラーが発生しました。http405 エラー。このメソッドは有効ではありません)」というメッセージが表示される場合があります。このエラーは正しく設定されていないどのマシンでも発生し得るものですが、Windows XP Professional マシンにおいてもっとも頻繁に起こります。この問題は、.NET 2.0 が IIS よりも先にインストールされ、ASP.NET が IIS に登録されていない場合に発生します。この問題を解決するには、`aspnet_regiis.exe -i found in C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\(\Version\)` を実行します。

DBXL のインストール中、エラーメッセージ HTTP 503 が表示される場合

インストール中、「*The installation failed, and the rollback has been performed -->Error initializing DBXL database. -->the request failed with HTTP status 503:* (インストールは失敗し、ロールバックを実行しました。>DBXL データベース初期化エラー >)」というエラーメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された場合は次の手順にしたがってください

1. アプリケーションプールが停止していないことを確認してください。停止していると、ユーザーアカウントとパスワードの一致に不具合が生じることがあります。アプリケーションプールのプロパティページにある **Identity** タブで再設定し、アプリケーションプールを再起動した後に、もう一度インストールしてください。
2. 正しい Web サイト（無効でないサイト）にインストールしたかどうかを確認してください。
3. SharePoint を使用の場合は、Network Service アカウントが WSS_WPG グループに入っていることを確認してください。

SQL への接続が拒否されたためインストールができない場合

SQL 接続が拒否されたため DBXL のインストールができない場合は、SQL サーバーがビジー状態で接続を処理できない可能性があります。インストーラは SharePoint がインストールされているかを確認しようとするため、SharePoint サイトがすでに実行されていなければ起動しようとしています。システムのリソースによっては、SharePoint を開始すると SQL サーバーが追加の接続を処理できなくなる場合があります。



ます。この問題に対処するには、インストーラを再開する前に、SharePoint サイトがシステムにあらかじめロードされているか確認してください。

手順は以下の通りです：

1. DBXL インストーラを開始し、タブのあるページのセットアップダイアログに進む。
2. Internet Explorer で、DBXL がインストールされるサイトのメインページを開く。
3. サイトが「Cannot complete this action」エラーを表示した場合は、1分ほど待ってから「Go back to site」リンクをクリックする。（または SharePoint ホームページの URL を再入力する）ホームページが表示されるまで繰り返す。
4. ページが正しく表示されたら、DBXL のインストールを再開する。

共有メモリプロバイダに関する SQL 接続エラー

DBXL のインストール中、「The installation failed, and the rollback has been performed. Error initializing DBXL database. Cannot initialize database 'QdabraDBXL' on server '<servername>'. See eventlog for details. (インストールは失敗しました。ロールバックを実行しました。DBXL データベース初期設定エラー。データベース 'QdabraDBXL' をサーバー '<servername>' に初期化することができません。詳細はイベントログを確認してください)」というエラーが表示される場合があります。イベントビューアでは以下のような詳細が表示されます。「Shared Memory Provider, error: 0 - No process is on the other end of the pipe. (共有メモリプロバイダ エラー:0 - パイプの一端にプロセスがありません) (*確認)これを回避するには、設定ツール(*確認 configuration tool) を使用する SQL サーバーの共有メモリプロトコルを無効にする必要があります。このエラーは、SQL サーバーと DBXL が同じマシンにある場合にのみ発生します。

SQL のデフォルトデータベースが設定されていない場合

SQL サーバーまたは IIS を再起動した後、「Shared Memory Provider, error: 0 - No process is on the other end of the pipe. (共有メモリプロバイダ、エラー:0 - パイプの一端にプロセスがありません)」というエラーが表示される場合があります。SQL サーバーにはほかの管理者権限でログインし、通常のログインアカウントに保存されているプロパティを確認してください。デフォルトのデータベースが設定されていない場合は、デフォルトのデータベースをリセットして、通常のログインアカウントでログインしてください。



HTTPS 経由で DAT が開かない場合

DBXL のインストール後、デフォルトの Web ページは Internet Explorer で表示されます。DAT リンクをクリックしても、ダイアログに **Open** ボタンが現れない場合、**Save** をクリックして XSN ファイルをデスクトップに保存してください。デスクトップに保存したファイルをダブルクリックして、DAT を開くことができます。このシナリオは、HTTPS を使用している場合にのみ発生します。

KERBEROS のためにデータが開けない場合

DBXL 管理ツールを開始する際、**infinitely prompted**、つまり、ログイン権限が認知されない場合があります。ユーザーにこの問題が生じた場合は、以下を確認してください。

1. コマンドプロンプトを開きます。
2. フォルダを `c:\inetpub\adminscripts\` に変更します。
3. 以下のコマンドを実行します。

`Cscript adsutil.vbs get w3svc/{WEBSITEID}/root/QdabraWebService/NTAuthenticationProviders`

表示された認証方法が「**Negotiate**」の場合、**Kerberos** が有効になっています。サイトで **Kerberos** が有効になっていれば、以下のいずれかを行なうことができます。

- a. IIS の DBXL アプリケーションプールを **SharePoint** アプリケーションプールと同一のアイデンティティを使用するよう変更する。
- b. `QdabraWebServiceFolder` で **Kerberos** を無効にする。
 - `Cd C:\inetpub\adminscripts\`
 - `cscript adsutil.vbs set w3svc/3/root/QdabraWebService/NTAuthenticationProviders "NTLM"`

上記のいずれかを実行した後、DBXL アプリケーションツールをリサイクルします。

インストール中にバーチャルディレクトリがクリーンアップされない場合

インストール中、以下のエラーが表示される場合があります。「*The specified path 'LM/W3SVC/769376297/ROOT/QdabraWebService' is unavailable*」このエラーにより、インストールが停止してしまいます。これを回避するには、エラーダイアログで **OK** をクリックし、IIS



Administration を開き、バーチャルディレクトリを作成します。Web サイトの下に QdabraWebService フォルダが作成されたら、右クリックで **Properties** を選択、**Create** をクリックし、**OK** をクリックします。インストーラに戻り、インストールを完了します。

イベントビューアに書き込みができない場合

DBXL の作業中、次のエラーが表示される場合があります「*Caught exception ensuring SharePoint form library <URL>. Cannot open log for source 'Database Accelerator.' You may not have write access. (SharePoint フォームライブラリ <URL> に例外を検出しました ソース 'Database Accelerator' のログを開けません。書き込み権限がない可能性があります)*」 この問題は、impersonating (匿名) コール中にイベントが書かれたことに起因しています。Caller には Qdabra イベントログへの書き込み権限がないため、エラーが表示されます。この問題を回避する方法は、全員に Qdabra ログへの書き込み権限を付与することです。手順は以下の通りです。

1. regedit.exe. を実行する。
2. HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\EventLog\Qdabra に行く。
3. Qdabra ノードを右クリック。
4. Permissions を選択する。
5. Authenticated Users に全権限を付与する。(または、DBXL Admins グループに全権限を付与)

これにより、イベントログに書き込まれたエラーを生じた実際のエラーがユーザーに報告されます。

サポート

DBXL v2.4 のインストール中に問題が生じた場合には、よくある問題、解決方法、回避方法などが説明している Release Notes 文書をご参照ください。この文書に関してご質問などがおありの場合は、下記にお問い合わせください。

ライセンスをご購入のお客様のためのサポート E メールアドレス : support@qdabra.com.

もしくは、フォーラム InfoPathDev.com [Qdabra](http://InfoPathDev.com) Product support forums to でサポートをリクエストいただくこともできます。

